

まつり囃子

「八王子祭囃子連合会・会報」第2号

平成 25 年 (2013 年) 1 月 27 日 発行/発行者 山崎英明 (八王子祭囃子連合会会長)
 事務局 〒 193-0931 東京都八王子市市町 1-17-12 大久保明彦 (事務局長)

[主な記事]

- 相談役挨拶 ●自分とまつり 水野 淳 ●祭囃子ありがとう 山本源吉 祭囃子はこころのふるさと 半澤秀雄
- 八王子まつり ●いちようホール公演

[加盟団体] 浅川囃子連・五日市上町囃子連・犬目囃子連・大横町囃子連・片倉囃子連・上柚木囃子連・散田囃子連・東雲会・諏訪伝統芸能保存会・千木良囃子連
 てんた会囃子連・中澤囃子連・並木はやし連・西三囃子連・八幡八雲神社西社囃子連・日野囃子愛好会・日野囃子保存会・木町囃子連・みつめ囃子振興会
 南大沢囃子連・宮下囃子保存会・元横囃子連鼓会・鍾水囃子保存会・よすけ会

相談役挨拶

萩生田富司

元 八王子市議会議長



まつり囃子連合会に寄せて

まつり囃子連合会は発足以来、歴代の会長並びに後援会長の多大なご尽力により、年々充実され、今日では近隣囃子連とも連携し、素晴らしい組織に発展されました。

関東屈指と言われる「八王子まつり」での囃子連の活躍は、八王子市民の誇りでもあります。

連合会では、歴史と伝統の技術を継承すると共に、他市のお祭りへも視察研修に赴き、さらなる祭り囃子の向上に努め、次世代に伝える努力には心から敬意を表します。

歴史ある文化財として誇れる山車や御輿を常時展示できる「山車会館」のような施設が望まれますので、二十周年を機に連合会の総意をもって、関係機関に要請出来ればと考え、努力したいと存じます。

自分とまつり

水野 淳

八王子市議会議長



わたしの地元である高尾地域には四季を通じての祭があり、幼少の頃から親しんでまいりました。家族や友と祭に行った記憶は、かけがえのない思い出として残っており、祭が近づくとも今でも心が躍ります。

さて、このところ市議会議長として市内各地で行われる祭に向う機会がありますが、どこの祭も、小さなお子さんからお年寄りまで、老若男女の笑顔と活気に溢れております。

世代を超えて人と人をつなぎ、地域への愛情を育む力が祭にはありますので、市内各地で行われている祭が次世代に継承され、地域の絆がしっかりと醸成されるよう、八王子市議会としても、様々な議論をしていきたいと考えております。



祭囃子ありがとう

山本源吉

八王子祭囃子連合会後援会会員
「肉の山本」会長

紀元二千六百年祝賀に上(かみ)と下(しも)合同盛大な祭りの想い出での後、翌年、私の送別会に祭り大好きな友人が横笛を吹き、桶を叩いて戦場に出征する私を励ます祝いで送ってくれた昭和十六年。

北支に三年、南方に三年。

時既に風雲急を告げる十九年の八月だった。

祖国の今頃は八王子の懐かしい祭りの最中であろうか？

そのとき、南海の孤島、怒濤波打ち砕く崖壁に立つて、遙かに祖国を偲び、暫し臉を閉じた。

子どもの頃から大好きな祭り、想い出が胸中を駆け巡る。

心のなかで祭囃子が激しく胸を打つ。

南海の孤島、背水の陣、いよいよ時がきた。遠い祖国から海を渡って祭囃子が私に勇気と奮起をくれた思いがした。

そのとき、祭囃子ありがとう、と心につぶやいた。

二十年前、当時元横囃子連の半澤会長に、各囃子連を集合して年に一度くらいお囃子大会をやったら、さ

ぞ豪快だろうと話しかけたことがあった。

実行力旺盛なる半沢氏の念が通じ、今日大連合になった。各地の催しに必ずボランティア参加され、今後も子どもたちに「八王子まつり」のよい想い出を残され、八王子祭囃子連合会が益々盛大発展されることを心より祈念いたし、私事の想い出でペンを止めます。誠に失礼な文をお許しください。

祭囃子は心のふるさと

八王子祭囃子連合会

総代

半澤秀雄

小さいときから祭が好きで、十六歳ころから山車のつっぺんに乗っていた。

夜ともなると灯が付き、山車の艶やかさが一段と際立って見えた。

「よーし、おれの出番だ」片肌を脱いで片手に弓張り提灯を持って、

「ソーレ、いーち、にーの、やーい」と大きな声でかけ声をあげる。

下から「半ちゃん、かっこいいぞ！」と声をかけてくれる。当人は気合いが入り、また「ソーレ、いーち、にーの、やーい」となる。そんな時代が何年か続いた。

二十二歳のとき、五人の仲間が集まり、誰ともなしに「おれたちもお囃子を習いたいなあ・・・太鼓たたきたいよ」と、お祭り談義が始まった。まず、師匠を探そう、五人じゃ囃子は手一杯、仲間を集めよう。道

具、衣装、面をそろえ、一年後にやっと会が発会した。

まだまだあった、会には会則が必要だ。会費を集めたら会計報告をしなくてはならない。年に一度は総会を開かなければいけない。この一年で色々なことを覚えてもらった。この経験が後に役立つことにな

る。

四十一歳で八幡八雲神社青年会を立ち上げた。氏子二十六か町、地域の青年が六百人ほど集まった。全国氏子青年協議会のなかでもトップクラスの人数を集めることができた。青年会は一年の行事がたくさんある。大祓式、元旦祭、節分祭、八雲神社の祭礼、八幡神社の祭礼、大注連縄神事、それにいまでは横山神社、菊まつり、七五三と行事も増えてきた。嬉しい限りである。

そして四十五歳のときに「八王子祭囃子連合会」を立ち上げた。いまでは二十四団体、八百名ほどの会員がいる大きな会へと育っている。八王子まつりはもちろんのこと、「いちようホール」での秋の市民文化祭「祭囃子は心のふるさと」、いちようまつり、八幡神社祭礼のお囃子共演、それに年一度の視察旅行、バスの中での祭り談義に、ちよいと一杯。それに新年会と総会、やることはたくさんあるが、あとは後輩達に任せよう。

最近、ちびっ子たちが、どこの会も増えているようだ。「いちようホール公演」などでも度々見かけられる。これも嬉しい限りである。

本当に「祭囃子は心のふるさと」であり、これからもお祭りに、いま少し力を注いでいきたいと思っ

「平成二十四年八王子まつり囃子」

五日市上町囃子連

前年は震災の影響で中止となった八王子まつりでしたが、本年は八月三日（金）から五日（日）までの三日間にわたり盛大に開催されました。

八王子祭囃子連合会の依頼により京王八王子駅ビルの横に設置された子安神社の山車による居囃子を担当することになり、何もかも初めてで不安もありましたが、責任団体の諏訪伝統芸能保存会様と、共演団体の日野囃子愛好会様にとっても親切丁寧にご指導いただき、楽しく、そして無事に務めることが出来て安堵しております。

演奏は正午から夜九時まで音を止めること無く日野囃子愛好会様とで交互に90分の担当を務めました。休憩が90分あり昼食も夕食もゆったりとることができました。お囃子を始めれば90分はアツという間に過ぎてしまうような感覚で、思ったよりも楽に感じたど皆が口をそろえて言っております。

また、天候にも恵まれ、夏真っ盛りの青空の下でしたが、ビルの合間から吹き抜ける風が演奏中も休憩中も汗を乾かしてくるほど心地よいものでした。

一昨年の八王子まつりにはメンバーを募り見学に訪れたこのビッグイベントに、まさかこうして今回自分

たちが参加するとは思ってもよらず、不思議な満足感で満たされております。

お祭りを見るのも楽しければ、参加するのも楽しいものです。関東屈指の山車祭である八王子まつりですから、欲を言えば甲州街道の山車巡行を見たかったのも正直なところですが、メイン会場から一番遠いこの場所を賑やかに、すこしでもお役に立てて満足しております。

美味しい食事と十分なお心使いをして下さった京王八王子商店街の皆様をはじめ、今回このような素晴らしい経験の場を提供して下さいました八王子祭囃子連合会に心より感謝申し上げます。



鍮水囃子保存会

本年度の「八王子まつり」は二年ぶりということもあり、子どもたちも練習を積み重ね、張り切って本番に臨みました。当日は暑いなかでしたが、子どもたち一丸となり、頑張っていました。祭りの山車が四台ぶつかり、激しい演奏のぶつかり合いが行われ、白熱した場面もありました。

当会について

流派は神田囃子

江戸神田明神の宮司一族が鍮水絹商人の屋敷に住み込み、村人にお囃子を教えたことが鍮水のお囃子の始まりだと伝えられています。

現在は、小・中・高の子ども達を中心とした鍮水子ども囃子で活動しています。

大横町囃子連

大横町は甲州街道から少し離れているのですが、毎年大勢の方が見に来ていただいています。初日の宵宮は十九時から二十一時まで居囃子を行いました。

二日目は朝から子ども神輿、千貫神輿の引き廻しがあり、迎え囃子で盛り上げました。

午後になると山車の町内巡行があり、川治いや町内の裏通りまで約三時間かけての巡行、そして夜は甲州街道には出ず、町内会での模擬店、大人神輿の手伝いをし、大人神輿では近隣町会神輿も合流し、山車の前の競り合いを居囃子で盛り上げました。

三日目のこの日は、伝統である朝囃子から始まり、早朝五時から叩き始め、最終日を迎えます。

その後は大人神輿渡御を居囃子で盛り上げました。夜になると、山車総勢九台からなる「辻合わせ」という囃子の競り合いに参加し、今年の八王子まつりのクライマックスを飾りました。

東雲会

東雲会の夏祭りは七月中旬の山車の組み立てから始まります。

そして一カ月間、子安神社や北野天満宮、八王子まつり、元本郷一丁目等のお祭りに参加し、八月中旬の山車の解体で終わります。



てんた会囃子連

大盛況で終わった今年の八王子まつり。

年々他県近隣から八王子まつりを見物に訪れる方が増え、益々「関東屈指の山車祭り」としての知名度が上がってまいりました。

これも数年前から市を上げて、様々な試行錯誤等による努力の成果であると考えます。

また今年も、去年、東日本大震災により中止になってしまった分、例年以上に大変な賑わいを見せました。

しかしながら残念なことに、本来様々な意味をもち合わせるお祭り内の行事のなかで、それを崩してしまふ様な出来事が起こってしまったことも事実として見受けられました。

最近の傾向では、「辻合せ」「年番送り」が行われるようになり、確かに決まった時間に山車が一堂に見られる機会が増えましたが、その代償として巡行の時間が減ってしまい、「参加する祭り」から「見せる祭り」へと変貌してしまつた様に思えます。

私が思う「八王子まつり」の醍醐味は、各町会自慢

の華麗な彫刻山車や神輿、そして祭囃子の競演を間近で感じ、見ることが出来ることだと思います。そして何より、「ぶつつけ」こそ八王子まつり一番の見せ処ではないでしょうか。

しかし最近では、巡行時間の減少により「ぶつつけ」の機会が減ってしまったことで、お祭りに参加する子どもたちの間に、「ぶつつけ」という言葉を知らない子が増えてきたと聞いております。

このままでは、「八王子まつり」本来の醍醐味・伝統が無くなってしまい、方向性を見失った挙句に衰退してしまうのではという危機感さえ覚えました。

長年「八王子まつり」に携わる者として、近年の発展ぶりはとても喜ばしいことではありますが、だからこそ敢えて苦言を申し上げました。

私たち、「お囃子」という伝統芸能をお祭りに関わるものとして、いま一度「八王子まつり」を見つめ直すべきではと考えさせられました。



特別寄稿 八王子の目黒囃子

そもそも目黒流はその名の通り現在の目黒区を発祥とする流派で、目黒囃子はその囃子を指します。

諸説ありはつきりした伝承は残っていませんが、一説には江戸時代に松平出羽守が奨励し広めた囃子であったといわれています。

本来は目黒区の囃子の自称ではなく、他地域に伝承された際に目黒方面の囃子であるというを示すために後から用いた呼称です。現在は目黒区を含め目黒囃子の呼称で統一化されています。

現状八王子市内には囃子団体は五〇団体程度伝承されており、内半数の二五団体が目黒流を名乗ります。目黒囃子がいつ頃八王子に伝承されたかは定かではありませんが、現在の目黒囃子と呼んでいる囃子以前にも別に目黒囃子を名乗る囃子が存在したようです。市外の昭島市の拝島志茂町、日野市の東光寺、神奈川県相模原市の藤野町は明治期に八王子の小宮粟巣から伝承されたと伝えられています。

曲調が現在の目黒囃子と異なったものを伝えており、北野での改修が行われる以前の囃子と考えられます。

もともと現在伝承されている囃子はそれぞれ周辺地域の他流派の影響を少なからず受けており、全て古いものかといえは疑わしいところです。ともあれ明治期には既に八王子の目黒流の囃子は確立されていたこととなります。

現在八王子市内で伝承されている目黒囃子の殆どは同市北野を源流とする囃子です。

北野において石坂氏、雨野氏らにより前述の古い目黒囃子に船橋流や神楽囃子の所謂お座敷囃子の技法を付加し独自の囃子へと変化しました。このためか八王子の囃子の技法、用語は多摩地区の目黒囃子とは明らかに異なり品川区や大田区といった都内の囃子に近い様に感じられます。

明治期に近隣の上柚木、片倉に伝承されます。この時点では目黒囃子を伝えるのは極一部の地域に限られていました。目黒流に限ったことではありませんが、戦前は市街地に囃子は伝承

されていません。これは農村の余興と考えられていたことが大きいのでしよう。機業地の旦那衆は囃子をやらず祭禮時に限り、他地区から招くわけです。このことから、当時の八王子まつりは市内外の囃子が混在した祭りであったと察せられます。

勢いのある神田流、メリハリのある山の手流など、各町内で好みの囃子団体を招くなかで、目黒流は落ち着いたお座敷囃子という点に特化していきました。

戦後から市街地の一部地域で囃子連が発足する機運が高まります。伝承者の減少、習得に対しての規制などが緩和されたことが大きな要因と考えられます。北野より本町、追分町、相模湖与瀬などに伝承されます。一九七〇年代から目黒流の囃子を習う機運が一層高まり、平成の今日に至るまで多くの目黒囃子が伝承されています。

元横囃子連鼓会 酒井光太郎

参考文献

- 『東京都の民俗芸能—東京都民俗芸能調査報告書—』平成二四年 東京都教育庁地域教育支援部管理課
- 『元横囃子連鼓会三〇周年記念会誌』平成一三年 元横囃子連鼓会三〇周年記念誌編集委員会



◆読者からの投稿.....

「八王子まつりへの意見」

- ①ボスターに載せる山車・屋台の写真は、昭和や平成にできた山車・屋台は外すべきです。古い山車・屋台でないと重みがありません。
- ②ボスターには山車人形を載せるべきです。その際にも昭和や平成にできた人形は外すべきです。(上八日町の人形は首部は明治一六年製作のため、掲載可です。八王子で最も優れた首部です)
- ③毎年異なった八王子まつり限定記念商品販売していますが、内容のわりに価格が高いと思います。
- ④当日、山車・屋台が現在何処に居るかがわかる掲示板があるとお客様に喜ばれると思います。富士宮の祭りで実施されています。
- ⑤駅の改札前や駅付近でのまつりPR活動が他市に比べると非常に寂しいと思います。
- ⑥お客様に配付されるパンフレットが他市の物に比べて写真が少なく、地図も緻密でなく、評判が悪いのです。
- ⑦最近、「ぶつつけ」ではなく「辻合わせ」などと表現されていますが、「辻合わせ」は川越の模倣と思われるので、この表現は止めた方がよいと思います。「ぶつつけ」は鹿沼でも使われていますが、自分達の伝統に自信を持ちたいと思います。八王子は「ぶつつけ」です。何台でやっても「ぶつつけ」です。因みに、「年番送り」は熊谷うちわ祭りの模倣と思われる。(本来の年番は八王子のように木札を買って終わりではありません。年番としての大切な役割が一年間あるのが本当です)八王子の年番送りはただのショーです。他市の人から笑われます。悲しいです。

昔のように駅前が集まって、そこからパレードして、その後自然の「ぶつつけ」で十分ですし、それが八王子まつりだったのでないでしょうか。

⑧宵宮に山車の巡行をした町会があると聞きました。宵宮は神社に新しい神札をいただきにあがる前日のこと、八王子では一切このようなことはありませんでした。

投稿ありがとうございました。今後も読者の皆様の投稿をお待ちしております。